

空港容量拡大に向けた施設整備について

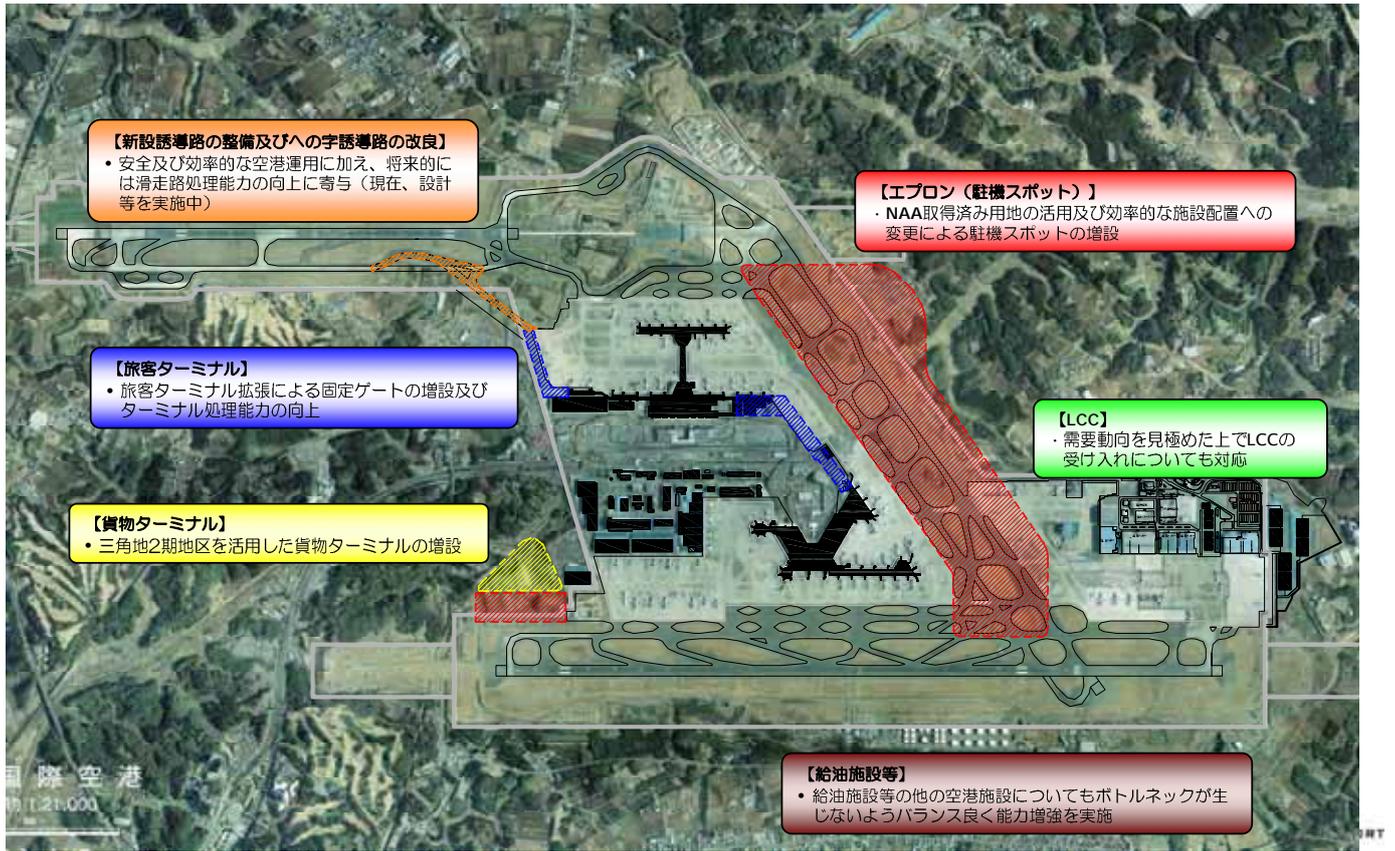
平成22年1月27日



空港容量拡大に向けた空港整備の考え方

- 我が国の国際拠点空港として、増大する航空需要に遅れることなくスピーディーに空港施設を整備し、国際線ネットワークの更なる拡大、及び国内路線の充実にも対応できる空港整備を進めます。
- 現空港用地の活用に加え、NAA取得済み用地等を活用した域外展開により、**効率的で運用しやすく**、また、**コストパフォーマンスの高い施設整備**を行います。
- 特定の施設が処理能力のボトルネックとならないよう、エプロン（駐機スポット）、旅客ターミナル、貨物ターミナル等、多岐に渡る空港施設を**バランス良く整備**していきます。
- ITを駆使したe-Airportを進めるとともに、地球的視点に立ったエコ・エアポート構想に基づく空港整備を進めます。
- また、幅広い顧客ニーズに応えるため、需要動向を見極めた上で、LCC（ローコストキャリア）についても受け入れに向けた施設整備を行います。
- NAAは今後も「**空港づくりは地域づくり**」を基本理念にして、地域と共生・共栄する成田空港を目指します。

成田国際空港の容量拡大に向けた整備計画（マスタープラン）について



2

地元合意後における空港容量拡大に向けた今後の流れ

年度	施設面・運用面の課題	年間発着能力
2009	北伸計画の供用	22万回
2010	運用制限の緩和 への字誘導路の改善	25万回
2011	同時離着陸運用の導入 駐機場の増設	
2012	新設誘導路の供用 駐機場の増設	27万回
2013	駐機場等の増設	最速で2014年度までに30万回対応の施設整備が可能
2014		30万回

3